

【案件概要】

ラムオ県聖メアリー・マディ・オペイ中学校における女子寮建設計画

1. 計画の概要

| | |
|---------|---|
| 被供与団体 | 聖メアリー・マディ・オペイ中学校 |
| 供与額 | 87,728米ドル |
| 署名者 | ジョン・マーク・オリエム(理事長) |
| 計画名 | ラムオ県聖メアリー・マディ・オペイ中学校における女子寮建設計画 |
| 実施地 | ラムオ県(ウガンダ北部) |
| 供与内容 | 女子寮1棟(606㎡:寮室4室,寮母部屋1室,浴室9室,貯水タンク2基,フェンス,生徒200人及び寮母2人収容),トイレ棟(5基),ソーラー発電システム,家具 |
| 贈与契約署名日 | 2016年3月3日 |

ラムオ県マディ・オペイ準郡に所在する聖メアリー・マディ・オペイ中学校は、1992年にキトゥグム教区とグル大司教区を母体として設立されたコミュニティ学校であり、紛争中に施設が破壊されましたが、EU等からの支援により教室棟を再建し学校運営を再開しました。現在、同校には教員16人が所属し、中学1年生から4年生までの578人(男子380人,女子198人)の生徒が通う同準郡唯一の中学校です。同校では40年以上前に建設された教区ホールが女子寮として使用され、80人の女子生徒が生活していますが、老朽化した建物は崩壊の危険性が危惧されています。また、女子寮に入ることができない多くの女子生徒は毎日片道7キロ以上の道のりを登校しています。同準郡内の治安の悪い商業地区にわらぶき屋根の家を借りている者も多く、夜間使用する蠟燭による火事が発生したり、性的被害に遭う女子生徒もいます。本計画では、新たな女子寮及びトイレ棟の建設、ソーラー発電システム及び家具の整備を行うことにより、女子生徒200人の健康的で安全な生活・学習環境を確保します。

2. 贈与契約署名式

2016年3月3日、在ウガンダ日本国大使館において、藤田順三大使とジョン・マーク・オリエム理事長の間で贈与契約が署名されました。

プレスリリース(英語)

写真